

令和3年度

修士課程 鍼灸学専攻

授 業 概 要

明治国際医療大学大学院

令和3年度 大学院 修士課程 鍼灸学専攻 教育課程

科目区分	細目	授業科目	配当年次	単位数	分野				時間数	備考
					伝統鍼灸学	鍼灸基礎医学	鍼灸臨床医学	健康予防鍼灸学		
					必修	必修	必修	必修		
基盤科目	スタートアップ	研究法入門	1	1	1	1	1	1	15	
		臨床鍼灸学入門	1	1	1	1	1	1	15	
	ベーシック	基礎鍼灸医学	1	4	4	4	4	4	60	
		臨床鍼灸医学	1	4	4	4	4	4	60	
		医学研究法	1	1	1	1	1	1	15	
	アドバンス	統合医療学	1	1	1	1	1	1	15	
		学際鍼灸医学	1	1	1	1	1	1	15	
		教育学概論	1	1	1	1	1	1	15	
		予防医学	1	1	1	1	1	1	15	
		鍼灸医学特論	1	1	1	1	1	1	15	
専門科目	実験計画法	伝統鍼灸学研究法	1	2	2				30	2単位以上必修
		鍼灸基礎医学研究法	1	2		2			30	
		鍼灸臨床医学研究法	1	2			2		30	
		健康予防医学研究法	1	2				2	30	
	実験調査法	伝統鍼灸学演習	1・2	4	4				120	4単位以上必修
		鍼灸基礎医学演習	1・2	4		4			120	
		鍼灸臨床医学演習	1・2	4			4		120	
		健康予防医学演習	1・2	4				4	120	
	特別研究	特別研究Ⅰ	1・2	1	1	1	1	1	30	
		特別研究Ⅱ	1・2	5	5	5	5	5	150	
特別研究Ⅲ		1・2	2	2	2	2	2	60		

修了に必要な単位数は、基盤科目の全科目16単位と専門科目の特別研究8単位ならびに研究法2単位以上、演習4単位以上を選択必修し、合計30単位以上とする。

目 次

基盤科目

1. 研究法入門	1
2. 臨床鍼灸学入門	3
3. 基礎鍼灸医学	5
4. 臨床鍼灸医学	11
5. 医学研究法	17
6. 統合医療学	19
7. 学際鍼灸医学	21
8. 教育学概論	24
9. 予防医学	25
10. 鍼灸医学特論	28

専門科目

1. 伝統鍼灸学研究法	30
2. 鍼灸基礎医学研究法	31
3. 鍼灸臨床医学研究法	32
4. 健康予防医学研究法	33
5. 伝統鍼灸学演習	34
6. 鍼灸基礎医学演習	35
7. 鍼灸臨床医学演習	36
8. 健康予防医学演習	37
9. 特別研究 I	38
10. 特別研究 II	39
11. 特別研究 III	40

授 業 科 目 名	研究法入門					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎角谷英治、糸井マナミ、山崎翼					
テ ー マ	研究を開始する上で必須となる知識の学習					
授 業 の 概 要	研究活動を行う上で、最低限必要となる知識について学習する。具体的には、①論文検索、②研究の専門用語、③研究デザイン、④臨床研究の倫理、⑤倫理的配慮、⑥動物実験の倫理、⑦調査研究、⑧症例報告について学修し、研究活動を行う上で必要となる基礎知識について理解する。 ＜動物実験の倫理＞動物実験を行うために必要な関連法規・基本指針および本学における動物実験規程を学ぶ。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究活動に必要な倫理的内容について理解すること 2. 研究に関する用語の理解や文献検索の方法を理解すること 3. 研究デザインや統計解析について基礎的な内容を理解すること 4. ＜動物実験の倫理＞関連法規・基本指針等の目的を理解したうえで動物実験の意義、動物福祉について考え、動物実験を行う上で必要な倫理観を養う。 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 論文検索と文献複写 (山崎 1) [到達目標] 論文検索ならびに文献複写の方法について理解する。					
2	[授業概要] 基本的な研究・統計学の用語 (山崎 2) [到達目標] 研究に関する基本的な用語や統計学の用語について理解する。					
3	[授業概要] 研究デザインの基本 (山崎 3) [到達目標] 研究デザインの種類やその違いについて、基本的内容を理解する。					
4	[授業概要] 臨床研究の倫理 (山崎 4) [到達目標] 臨床研究に必要な倫理について理解する。					
5	[授業概要] 研究実施に際しての倫理的配慮 (山崎 5) [到達目標] 研究を実施する際の倫理的配慮について、実際の場面を想定しながら理解する。					

6	<p>[授業概要] 動物実験の倫理：動物実験関連法規と動物実験の実施に関する基本指針、明治国際医療大学動物実験規程について解説する。</p> <p>[到達目標] 動物実験関連法規について理解し法を順守した正しい動物実験が行える。3Rの原則、動物の福祉、日本における動物実験の自主管理体制について理解する。</p>	<p>受講前に関連法規：動物の愛護及び管理に関する法律について、一読しておく。</p> <p>動物実験の意義、動物福祉について考え、動物実験を行う上で必要な倫理についてまとめる。</p>
7	<p>[授業概要] アンケート調査（山崎6）</p> <p>[到達目標] 調査研究の基本的内容について、アンケート調査を中心にして理解する。</p>	
8	<p>[授業概要] 症例報告の方法（山崎7）</p> <p>[到達目標] 症例報告の意義や実際の内容について理解する。</p>	
テキスト（配付資料）	配布資料	
参 考 文 献	1. 医学的研究のデザイン第4版－研究の質を高める疫学的アプローチ，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2014.	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢（発言など）などによって総合的に評価する（60点以上を合格とする）。	
その他（アドバイス等）	特になし	

授 業 科 目 名	臨床鍼灸学入門					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎廣 正基、和辻直、山崎 翼、吉田行宏、福田晋平					
テ ー マ	鍼灸臨床において、治療する頻度の高い疾患、症状について、診察から鍼灸治療の基本的な方法までを理解する。また、患者心理についても学習・理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床において遭遇する確率の高い①頭痛、②耳鳴・難聴、③痺れ・冷え、④頸肩腕痛・肩こり、⑤上肢痛・五十肩、⑥腰下肢痛、⑦その他不定愁訴などについて学び、ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な知識を理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 鍼灸臨床において治療する頻度の高い疾患、症状について理解する。 2. ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な知識を理解する。 3. 患者心理を理解し、患者教育の方法までを理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 総合診療・理学検査について (山崎 1) [到達目標] ジェネラリストとして鍼灸臨床を行う上で必要な、基本的知識を理解する。					
2	[授業概要] 頭痛 (福田 1) [到達目標] 頭痛に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
3	[授業概要] 耳鳴・難聴 (福田 2) [到達目標] 耳鳴・難聴に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
4	[授業概要] 手足のしびれ・冷え (福田 3) [到達目標] 痺れ・冷えに対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
5	[授業概要] 頸部痛 (吉田 1) [到達目標] 頸肩腕痛・肩こりに対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					
6	[授業概要] 肩関節痛 (吉田 2) [到達目標] 上肢痛・五十肩に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。					

7	[授業概要] 腰下肢痛 (吉田 3) [到達目標] 腰下肢痛に対する鍼灸臨床の診察と治療について、基本的内容を理解する。	
8	[授業概要] 東洋医学の基礎について (和辻 1) [到達目標] 東洋医学的診察の基礎について理解する。	
テキスト (配付資料)	配布資料	
参 考 文 献	1. 伊藤和憲, いちばんやさしい 痛みの治療がわかる本, 医道の日本, 2017.	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢 (発言など) などによって総合的に評価する (60 点以上を合格とする)。	
その他 (アドバイス等)	特になし	

授 業 科 目 名	基礎鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	◎和辻 直 鳴瀬善久、榎原智美、林 知也、川喜田健司、 糸井マナミ、千葉章大、廣 正基、木村啓作、角谷英治					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、鍼灸医学と関連が深いと考えられる基礎医学的分野および鍼灸医学の伝統的基礎理論分野の各領域における最新の知見について学習し、基礎鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸医学に関連する形態学(特に鍼灸臨床と関係の深い体表解剖及び皮膚の形態)、機能学(特に鍼灸刺激で生じるさまざまな生体现象を理解する基礎となる生体の調節機構)、免疫学(特に免疫系・生体防御系)について教授する。また、鍼灸医学の根底を成す古医書及び鍼灸医学の基礎理論となる経絡経穴学・診察法(四診法)等についてより専門的に教授する。					
	【形態学領域】 (榎原智美/4回) 皮膚の形態について教授する。鍼灸刺激の対象である皮膚、鍼灸治療の触診のための感覚受容部としての皮膚、の形態学的基盤について教授する。 (鳴瀬善久/4回) 分子生物学の現代医学分野における研究の現状と鍼灸医学分野への応用の可能性について教授する。					
	【機能学領域】 (川喜田健司/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。動物機能において特に体性神経系機能などを教授する。 (林 知也/4回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。植物機能において、特に循環・消化・代謝などについて教授する。					
	【免疫学領域】 (千葉章太/4回) 生体の維持・生体防御における血管・リンパ管・血管系を介する細胞移動、細胞へのシグナル伝達の分子基盤を教授する。 (糸井マナミ/4回) 免疫系の成り立ち、免疫応答、免疫応答の関わる疾患および免疫系の器官形成と制御についての分子基盤を教授する。					
	【基礎鍼灸学領域】 (角谷英治/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として現代西洋医学の観点でとらえた経絡、ツボについて教授する。 (木村啓作/1回) 鍼灸臨床における安全性について教授する。 (廣 正基/3回) 東洋医学的な基本的な整体(生体)観と疾病の関わり、					

	<p>疾病について理解するとともに、根幹を成す臓腑・経絡との関連について教授する。</p> <p>(和辻 直/2回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として東洋医学の診察法、特に舌診について教授する。</p>	
視 点 (ねらい)	<p>【形態学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚の形態学的基礎と皮膚感覚受容器について理解すること 2. 先端的研究に欠かせない分子生物学の現状とその鍼灸医学分野への応用の可能性について理解すること 3. 鍼灸領域で重要な治療対象となる筋の発生機序について分子生物学的立場から理解する。 <p>【機能学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体表刺激と体性神経機能との関係について理解すること 2. 体表刺激と消化・代謝機能との関係について理解すること 3. 体表刺激と循環・生体調節機能との関係について考えること <p>【免疫学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の基本構成・血液系細胞・循環系について理解すること 2. 生体防御系・炎症・アレルギーについて理解すること 3. 生体防御系の調節系について考えること <p>【基礎鍼灸学領域】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の基本的な整体観、病因、臓腑や経脈について理解すること 2. 経脈理論について理解すること 3. 形態学的、機能学的にみた経絡、ツボについて理解すること 4. 鍼灸臨床における安全性について理解すること 5. 舌診の診断的有効性について理解すること 	
授 業 計 画		
日程	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
1	[授業概要(榎原1)] 皮膚感覚受容の形態学的基礎	参考文献(図書)の「入門組織学」と「標準組織学 総論」を予習・復習し、組織学全般を把握する。
	[到達目標(榎原1)] 組織学的基礎を復習する。教材を見直し復習する。	
2	[授業概要(榎原2)] 皮膚感覚受容の形態学的基礎	上記参考書に「標準組織学各論」を加えて予習・復習し、皮膚組織とはなにか、を、形態学的に理解する。
	[到達目標(榎原2)] 皮膚組織と感覚受容器の基本形態が示せる。教材を用いて予習復習する。	
3	[授業概要(榎原3)] 皮膚感覚受容の形態学的基礎研究	上記参考書に「Gray's Anatomy」を加えて予習・復習し、神経組織学的基礎と皮膚感覚受容器を把握
	[到達目標(榎原3)] 皮膚感覚および深部感覚を担う構造の定義と多様性について知る。	

	教材を用いて予習復習する。	する。
4	[授業概要(榎原4)] 皮膚感覚受容の形態学的基礎研究	上記参考書を予習復習し、機械受容器の形態学的特徴を把握する。
	[到達目標(榎原4)] 皮膚感覚受容の形態と機能。感覚受容のアンサンブルについて知る。教材を用いて予習復習する。	
5	[授業概要(鳴瀬 1)] 分子生物学の鍼灸医学への応用	
	[到達目標(鳴瀬1)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
6	[授業概要(鳴瀬 2)] 分子生物学の鍼灸医学への応用	
	[到達目標(鳴瀬 2)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
7	[授業概要(鳴瀬 3)] 子生物学の現状と応用への可能性	
	[到達目標(鳴瀬 3)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
8	[授業概要(鳴瀬 4)] 子生物学の現状と応用への可能性	
	[到達目標(鳴瀬 4)] 分子生物学の現状と応用への可能性	
9	[授業概要(川喜田 1)] 体表刺激で興奮する体性感覚受容器	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田1)] 各種受容器の特徴を理解させる。	
10	[授業概要(川喜田 2)] ポリモーダル受容器の構造と機能	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田2)] ポリモーダル受容器の持つ役割について理解させる。	
11	[授業概要(川喜田 3)] 体性感覚刺激でおこる筋緊張緩和作用	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田3)] 筋緊張の調節機構を理解させる。	
12	[授業概要(川喜田 4)] 体性感覚刺激でおこる鎮痛作用	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田4)] 内因性鎮痛機構を理解させる。	
13	[授業概要(林 1)] 消化・吸収機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林1)] 消化・吸収機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	

14	[授業概要(林2)] 代謝機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林2)] 代謝機能の内、特にエネルギー代謝機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
15	[授業概要(林3)] 循環機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林3)] 循環機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
16	[授業概要(林4)] ストレスに対する生体調節機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林4)] ストレスに対する生体調節機能の内、特に内分泌機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
17	[授業概要(千葉1)] 生体を構成する分子の特徴	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉1)] 生体構成分子の特徴を理解する。	
18	[授業概要(千葉2)] 幹細胞：再生と修復	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉2)] 幹細胞の特性・創傷治癒について理解する。	
19	[授業概要(糸井1)] 生体防御反応	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井1)] 自然免疫と獲得免疫を理解する。	
20	[授業概要(糸井2)] 炎症とアレルギー	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井2)] 生体内危険分子・外来抗原への反応を理解する。	
21	[授業概要(糸井3)] 免疫寛容と自己免疫疾患	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井3)] 自己寛容の形成と自己免疫疾患の発症機序を理解する。	
22	[授業概要(糸井4)] 免疫系器官の形成と機能	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井4)] 免疫系器官の形成とその機能について理解する。	
23	[授業概要(千葉3)] 細胞の接着と移動の制御	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉3)] 免疫系細胞の局所への移動について理解する。	
24	[授業概要(千葉4)] 細胞内シグナルの制御	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉4)] 免疫細胞における細胞内シグナル制御ー受容体刺激から転写調節へーを理解する	

25	[授業概要(廣 1)] 東洋医学の古典検索方法を学ぶ。	インターネットや図書館において、実際に古典文献の検索を行う
	[到達目標(廣 1)] 古典検索の方法を説明できる。	
26	[授業概要(廣 2)] 東洋医学の古典の基礎的な読み方を学ぶ。	『黄帝内経』(『素問』上古天真論篇 01 など) を読む
	[到達目標(廣 2)] 古典の基礎的な読み方を説明できる。	
27	[授業概要(角谷 1)] 形態学的、機能学的にみた経絡について	体性刺激の伝導路とその特徴について見直して復習しておく。
	[到達目標(角谷1)] 経絡を基礎医学的に捉えて理解することができる。	
28	[授業概要(角谷 2)] 形態学的、機能学的にみたツボについて	体性刺激の伝導路とその特徴について見直して復習しておく。
	[到達目標(角谷2)] 診察点であり治療点であるツボを基礎医学的に捉えて理解することができる。	
29	[授業概要(廣 3)] 鍼灸臨床における感染防止対策について	鍼灸医療ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。
30	[到達目標(廣3)] 現状の鍼灸臨床における感染防止対策について理解する。	
31	[授業概要(木村 1)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について	鍼灸医療ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。
	[到達目標(木村1)] 鍼灸臨床における副作用・医療過誤・事故の現状について理解する。	
32	[授業概要(和辻 1)] 東洋医学の診察法、舌診の特徴・基本的診察法について学習する。	「新しい鍼灸診療」(p. 26~29) を読み理解を深める。
	[到達目標(和辻1)] 東洋医学の診察法の概要、舌診の特徴や基本的診察法、正常な舌所見などが説明できる。	
33	[授業概要(和辻 2)] 舌診の基本的診察法・臨床応用について学習する。	「新しい鍼灸診療」(p. 29~39) を読み理解を深める。
	[到達目標(和辻2)] 舌診の基本的診察項目が説明できる。また舌診所見と病証との関係や予後判断が理解できる。	

テキスト（配布資料）	<p>免疫学領域</p> <p>Essential 細胞生物学 原書第4版 中村桂子・松原謙一 監訳、南江堂 シンプル免疫学（改訂第5版）中島泉、高橋利忠、吉開泰信、南江堂 他にプリント配布</p> <p>基礎鍼灸学領域</p> <p>新しい鍼灸診療, 北出利勝編集, 医歯薬出版社, 2006</p> <p>形態学・機能学領域については適宜指示する。</p>
参 考 文 献	<p>免疫学領域</p> <p>もっとよくわかる！免疫学 河本宏、羊土社 カラー図解・免疫、感染症と炎症性疾患における免疫応答 笹月健彦監訳、 メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>基礎鍼灸学領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床経穴ポケットガイド 361 穴, 医歯薬出版, 篠原昭二 2. ビギナーズ鍼灸 HARI なび, ヒューマンワールド, 篠原昭二 3. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル, 尾崎昭弘著, 医歯薬出版, 2003 4. 鍼灸臨床の科学, 西條一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000 5. 東洋医学を学ぶ人のために, 高木健太郎他監修, 医学書院, 1984 6. 鍼灸医療安全ガイドライン, 尾崎昭弘・坂本歩他編, 医歯薬出版, 2006
評 価 方 法	<p>課題に対するレポートにより評価する。</p> <p>免疫学領域「鍼灸刺激が生体防御系調節に関与し得る作用とそのメカニズムについて」</p>
その他（アドバイス等）	<p>領域毎に随時、適当な文献を紹介する。</p>

授 業 科 目 名	臨床鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	◎廣 正基 福田文彦、苗村建慈、廣 正基 糸井 恵、角谷英治 神山 順、樋口敏宏、高羽夏樹、伊藤和憲、田口玲奈 木村啓作、谷口剛志、福田晋平、吉田行宏、山崎 翼					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、現代西洋医学の各診療科および鍼灸臨床の専門分野において、最新の知見について学習し、臨床鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	現代西洋医学の各診療科の分野における鍼灸臨床の対象となる可能性がある、あるいは有効なものを取り上げ、ガイドライン、診断法、治療法及び評価法などについて、最新の現代医学及び鍼灸医学の臨床に関する知見を教授する。また、鍼灸臨床の応用分野(スポーツ、予防・未病医療、高齢者医療)における意義と役割について教授する。					
	【内科系領域】 (福田文彦/1 回) うつ状態(病)における予防及び治療及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (福田文彦/1 回) 肥満及び糖尿病の基礎知識及び鍼灸治療に関する最新の知見について教授する。 (福田文彦/1 回) 消化器・代謝系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (福田文彦/1 回) 呼吸器疾患と鍼灸治療について、最新の知見を教授する。 (苗村建慈/1 回) 呼吸器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (苗村建慈 1 回) 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (廣 正基/1 回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に血圧管理の観点から最近の知見を教授する。					
	【整形外科系領域】 (糸井 恵/2 回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (角谷英治/5 回) 【調整中】					

	<p>【外科系領域】</p> <p>(神山 順／1 回) がん(特に消化器系)における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>(樋口敏宏／1 回) 脳疾患(特に脳血管障害)における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>(高羽夏樹／1 回) 泌尿器科疾患(主として神経因性膀胱)における診断と治療について、最新の知見を教授する。</p> <p>(伊藤和憲／2 回) 急性痛・慢性痛の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(田口玲奈／2 回) 産科領域と婦人科(特に月経困難症)の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>【応用鍼灸系領域】</p> <p>(福田晋平／2 回) 高齢者疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(山崎 翼／1 回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に産業医学の観点から最近の知見を教授する。</p> <p>(木村啓作／2 回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(吉田行宏／1 回) コンデショニングに関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。</p> <p>(谷口剛志／1 回) 海外におけるスポーツ鍼灸事情の最新の知見について教授する。</p>
<p>視 点 (ね ら い)</p>	<p>【内科系領域】</p> <p>1. 内科系疾患及び症状(1部精神疾患を含む)において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【整形外科系領域】</p> <p>1. 整形外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【外科系領域】</p> <p>1. 外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること</p> <p>【応用鍼灸系領域】</p> <p>1. スポーツ分野、予防・未病医学分野、高齢者医療分野における病態、予防・治療法及び鍼灸臨床の意義と役割について理解すること</p>

授 業 計 画		
日程	概 要	備考（授業時間外学習の指示等）
1	[授業概要(福田1)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について解説する。	うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(福田1)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について理解する。	
2	[授業概要(福田2)] 肥満・糖尿病における鍼灸治療の役割について教授する。	
	[到達目標(福田2)] 肥満・糖尿病における鍼灸治療の役割について説明できる。	
3	[授業概要(福田3)] 消化管疾患と鍼灸について教授する。	
	[到達目標(福田3)] 消化管疾患と鍼灸について説明できる。	
4	[授業概要(福田4)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について教授する。	
	[到達目標(福田4)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について説明できる。	
5	[授業概要(廣1)] 未病医学における鍼灸臨床の応用、生活習慣病である高血圧症について血圧管理の観点から最近の知見を教授する。	
	[到達目標(廣1)] 日本の高血圧ガイドラインについて把握するとともに、高血圧に対する鍼灸臨床の現状および血圧管理への応用について理解する。	
6	[授業概要(苗村1)] 気管支喘息の診断と治療	呼吸器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(苗村1)] 気管支喘息の、現代医学からみた、病因、症状、診断、治療について理解する。	
7	[授業概要(苗村2)] 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。	循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(苗村2)] 循環器疾患の終末期像である心不全の疫学、病態および治療指針と予後について理解できる。	
8	[授業概要(角谷1)]	
	[到達目標(角谷1)]	
9	[授業概要(角谷2)]	
	[到達目標(角谷2)]	

10	[授業概要(糸井恵1)] 関節疾患(変形性関節症など)の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	関節疾患の基礎知識については参考書を利用して適宜補ってください。
	[到達目標(糸井恵1)] 関節疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	
11	[授業概要(糸井恵2)] 腰椎疾患(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など)の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	教科書を読んで、腰椎疾患の西洋医学におけるガイドラインを理解する(診察法・診断法・治療法について)。
	[到達目標(糸井恵2)] 脊椎疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	
12	[授業概要(角谷3)]	
	[到達目標(角谷3)]	
13	[授業概要(角谷4)]	
	[到達目標(角谷4)]	
14	[授業概要(角谷5)] 頸肩四肢症状の理解と診察、治療法、及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	頸部の機能解剖について学習する。
	[到達目標(角谷5)] 頸肩四肢症状の出現過程と診察法を理解し、病態把握に基づく鍼灸治療法について考察する。	
15	[授業概要(神山1)]	
	[到達目標(神山1)]	
16	[授業概要(樋口1)] 脳血管障害について、出血性疾患と虚血性(閉塞性)疾患にわけて、最新の知見を含めて解説する。	脳血管障害の中でも、特にクモ膜下出血、脳出血、脳梗塞について、病態、疫学、診断、治療、予防に関する知識を蒐集し整理を行う。論文の検索、理解などによって、最新の知見を蒐集する。
	[到達目標(樋口1)] 脳血管障害の病態、疫学、診断、治療、予防について理解する。	
17	[授業概要(高羽1)] 泌尿器疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。	講義スライドで出てくる用語については、参考資料を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。
	[到達目標(高羽1)] 泌尿器科疾患(主として下部尿路症状)の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる	
18	[授業概要(伊藤1)] 急性痛に対する鍼灸治療の最新の知見を解説する。	鍼灸理論の内容を復習しておいてください。
	[到達目標(伊藤1)] 急性痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。	

19	[授業概要(伊藤2)] 慢性痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。	鍼灸理論の内容を復習しておいてください。
	[到達目標(伊藤2)] 慢性痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識(病態把握や治療法)について理解する。	
20	[授業概要(田口1)] 産科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	
	[到達目標(田口1)] 産科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。	
21	[授業概要(田口2)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	
	[到達目標(田口2)] 産婦人科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。	
22	[授業概要(福田晋1)] 高齢者疾患としてパーキンソン病を取り上げ、疾患に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の方法と効果、可能性について教授する。	講義スライド中の用語等に関する知識は、指定参考書等を適宜参照しつつ補ってください。
	[到達目標(福田晋1)] 高齢者の中枢性疾患(パーキンソン病)の病態、特徴的症候、鑑別方法、評価、鍼灸治療法を理解できる。	
23	[授業概要(福田晋2)] 高齢者への鍼灸応用	
	[到達目標(福田晋2)] 高齢者への鍼灸応用について説明できる。	
24	[授業概要(山崎)] 労働者の健康状況や健康問題についてふれ、それに対する鍼灸治療の有用性について紹介する。	関連文献(学術論文)による予習と復習をする。
	[到達目標(山崎)] 労働者の健康管理を目的とした、産業領域における鍼灸治療の実践について知識をえる。	
25	[授業概要(木村1)] スポーツ鍼灸について。1) スポーツ鍼灸の適応疾患、2) スポーツ現場での鍼灸活動、3) スポーツ鍼灸に関する研究、4) スポーツ鍼灸を実践する上での問題点など。	
	[到達目標(木村1)] スポーツ分野における予防・治療法及び鍼灸臨床(スポーツ鍼灸)の意義と役割について理解すること。	

26	[授業概要(木村2)] (1) コンタクト及びノンコンタクトスポーツにおける傷害の予防・治療・競技復帰までのリハビリテーションについて。(2) スポーツにおける傷害予防およびパフォーマンス向上に関する最新の研究について。	
	[到達目標(木村2)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法(鍼灸治療の役割も含む)を理解する。	
27	[授業概要(吉田)] コンデショニングに関する鍼灸治療を教授する。	
	[到達目標(吉田)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法(鍼灸治療の役割も含む)を理解する。	
28	[授業概要(谷口剛)] 海外におけるスポーツ鍼灸について教授する。	
	[到達目標(谷口剛)] 海外におけるスポーツ鍼灸について理解する。	
テキスト(配付資料)	『図解 鍼灸療法技術ガイド1・2』矢野忠他編著 文光堂 2010 ※自主購入とする	
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学第7版：杉本恒明ほか編, 朝倉書店, 2009 2. 新臨床内科学第9版：高久史麿ほか編, 医学書院, 2009 3. 鍼灸学臨床編：天津中医薬大学ほか編, 東洋学術出版社, 1993 4. 標準外科学：北島政樹編集, 医学書院, 2010 5. 標準整形外科学：中村利孝編集, 医学書院, 2008 6. 図解整形外科学診断ガイド：露口雄一他著, 文光堂, 1996 7. 整形外科テスト法：斉藤明議監訳. 医道の日本, 1995 8. 排尿障害のすべて：渡邊決著 医薬ジャーナル社, 1998 9. よくわかる排尿トラブルの対処法：三木恒治・中尾昌宏編, 昭和堂, 2008 10. 新耳鼻咽喉科学：切替一郎著, 南山堂(株), 1998 11. 現代の眼科学(改訂第9版)：所 敬, 吉田晃敏編著, 金原出版, 2006 	
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。	
その他(アドバイス等)	全日本鍼灸学会雑誌参考。随時、参考文献・資料を指示・推薦する。	

授 業 科 目 名	医学研究法					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	◎ 梅田雅宏、渡邊康晴、川喜田健司、酒井晃二					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、実験に関する基本的な実験計画法(研究デザイン、研究機器、評価法など)、統計処理などについて理解する。					
授 業 の 概 要	<p>研究計画の立案、各種実験系の方法論に関する基本的な知識および統計処理の仕方について教授する。</p> <p>(川喜田健司/2回)実験計画法について教授する。特に論文の書き方(実験目的・方法・結果のまとめ方・考察)について教授する。</p> <p>(梅田・渡邊・酒井/6回)医学分野で必要とされる統計法の使い方について教授する。特に実験データの集計法、処理法、検定法、PCの使い方などについて教授する。</p> <p>各自のPCにExcelを入れて利用できるようにしておいてください。分からない場合は、事前に連絡してください。また、HPを参考に統計用語(http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/med_stat/med_stat1)・Excel(http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/excel_elements)の基本を予習しておいてください。特に初めて方はExcelのいろはのページにある「Excel チュートリアル」を必ずおさらいしてください。不明な点はume@meiji-u.ac.jpまでご連絡ください。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験計画法の基本について理解する。 2. 基本的な統計処理の方法について理解する。 3. 論文の書き方の基本を理解する。 4. 実験を行うに必要な基本的なルールについて理解する。 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	<p>[授業概要(川喜田1)] 論文の検索方法</p> <p>[到達目標(川喜田1)] 論文の検索方法を理解させる。</p>			関連資料の読解		
2	<p>[授業概要(川喜田2)] 論文の読み方、論文の書き方</p> <p>[到達目標(川喜田2)] 論文の構造とその内容を理解させる。また、論文の書き方として国際学術誌に受理される論文に必要なことを理解させる</p>			関連資料の読解		
3	<p>[授業概要(梅田1)] Excelの基礎</p> <p>[到達目標(梅田1)] Excelを用いてデータを整理し、平均値や標準偏差をとめる。</p>					

4	[授業概要(梅田2)] Excelを用いて2群のt検定を行い、平均値と標準偏差の意味を理解する。 [到達目標(梅田2)] 平均値と標準偏差の理解を深めt検定について理解する。	
5	[授業概要(酒井1)] データ集計の基本及び仮説検定の考え方 [到達目標(酒井1)] 簡単なデータ集計を行えるようにする。また、仮説検定の原理を理解し、仮説をたてられるようにする。	
6	[授業概要(酒井2)] Excelを用いて集計したデータを検定する [到達目標(酒井2)] PCを用いて収集したデータを検定おこない、データ収集を検定することの意味を理解する。	1) G*Power 3.1.9.2 の自習 (https://www.psychologie.hhu.de/arbeitsgruppen/allgemeine-psychologie-und-arbeitspsychologie/gpower/)の内容を確認すること。 2) 統計検定力について調査すること。
7	[授業概要(渡邊1)] アンケート分析 [到達目標(渡邊1)] アンケート調査の結果を分析する方法を理解する。	
8	[授業概要(渡邊2)] 様々な検定 [到達目標(渡邊2)] 複雑な検定について、用途などを理解する。	
リポート課題	《課題》(梅田) 統計と研究計画を理解するために、各自が想定する研究計画(模擬的なものでよい)と利用する統計およびその理由を述べる。 ume@meiji-u.ac.jp に提出してください。形式は word でも、テキストでも、google ドキュメントでも結構です。	
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。	
参考文献	臨床研究デザインー医学研究における統計入門, 折笠秀樹, 真興交易医書出版, 1995. EBM の道具箱 第2版, 斉尾武郎監訳, 中山書店, 2007 トップジャーナルにアケプトされる医学論文 高橋 弘, メディカルレビュー社, 2000	
評価方法	レポート課題で評価する。	
その他(アドバイス等)	随時、適当な文献を紹介する。	

授 業 科 目 名	統合医療学					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者	◎ 伊藤和憲、山崎翼					
テ ー マ	統合医療の概念とそれに必要な知識					
授 業 の 概 要	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。</p> <p>①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。</p>					
視 点 (ね ら い)	<p>1. 統合医療の概念について理解すること</p> <p>2. 統合医療を広めるために必要な知識</p> <p>3. 統合医療の特徴および長所と短所を理解すること</p> <p>4. 統合医療の現在と未来を理解する</p>					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	<p>[授業概要] 統合医療総論:1 (伊藤 1)</p> <p>[到達目標] 統合医療とは何かについて、社会的背景も踏まえて理解する。</p>			グループディスカッションを行う		
2	<p>[授業概要] 東洋医学の歴史と概念について議論を深める。(山崎 1)</p> <p>[到達目標] 中国医学の歴史を概説できる。</p>			配付資料を読解し、図書館で関連資料を調べる。		
3	<p>[授業概要] 東洋医学の歴史と概念について議論を深める。(山崎 2)</p> <p>[到達目標] 日本鍼灸の歴史を概説できる。</p>			配付資料を読解し、図書館で関連資料を調べる。		
4	<p>[授業概要] 東洋医学の基礎技術について理解を深める。(伊藤 2)</p> <p>[到達目標] 基礎的な四診法を行うことができる。</p>					
5	<p>[授業概要] 医師と連携するために必要な西洋医学的知識について講義する。(山崎 3)</p> <p>[到達目標] 医師と連携するために必要な西洋医学的知識について理解を深める。</p>					

6	<p>[授業概要] 医師と連携するために必要な西洋医学的検査について講義する。(山崎 4)</p> <p>[到達目標] 医師と連携するために必要な西洋医学的検査について理解を深める。</p>	
7	<p>[授業概要] 世界の統合医療について海外文献を調査し発表する (山崎 5)</p> <p>[到達目標] 世界の統合医療について文献から概要を学ぶ。</p>	各自でテーマを決めて発表する 発表後、ディスカッションを行う
8	<p>授業概要] まとめ (伊藤 3)</p> <p>[到達目標]・全体の総括を行う。統合医療についての意見交換を行う。</p>	各自でテーマを決めて発表する グループディスカッションを行う
テキスト(配付資料)	配布資料	
参 考 文 献	<p>1. 今西二郎：医療従事者のための補完代替医療第2版, 金芳堂, 2009.</p> <p>2. 伊藤和憲：慢性痛は自分で治せる (KK ベストセラーズ)</p> <p>3. 伊藤和憲：いちばんやさしい痛み治療 (医道の日本)</p>	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢(発言など)などによって総合的に評価する(60点以上を合格とする)。	
その他(アドバイス等)	特になし	

授 業 科 目 名	学際鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎梅田雅宏、伊藤和憲、山崎 翼					
テ ー マ	医療と情報、医療と社会、健康の病気などの各分野における中心的内容を取り上げ、学際的な観点から鍼灸医学をとらえなおす。					
授 業 の 概 要	<p>①医療と情報、②医療と社会、③予防と未病、④健康と病気の各分野における中心的内容を取り上げ、それらと鍼灸医学との関連性について教授する。</p> <p>(梅田雅宏/2 回) 医療情報に関する最新の知見として、医療情報とは何か、医療情報の意義と価値などについて教授する。</p> <p>(山崎 翼/3 回) 健康論の変遷などについて、健康と病気との関係性を通して健康とは何か、健康と伝統医学との関係を教授する。</p> <p>(伊藤和憲/3 回) 今後の医療を踏まえた予防医学・未病医学の意義や広め方、研究申請の方法について教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報とは何か、その意義と価値について理解すること。 2. 医療社会学という学問について理解すること。 3. 養生の意義と未病医学の意義と視点について理解すること 4. 健康と病気及び健康論について理解すること 5. 鍼灸医学における学際的な視点の必要性について考えること 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要(梅田1)] 医療に関連する情報の創出とそのデータの扱い方、利用の仕方を考え、現在の医療データ管理の現状を学習する。また、IT化の進化としてネットワークシステムについて解説し、その医療への応用を解説し、医療とコンピュータの関わりについて理解を深める。					
	[到達目標(梅田 1)] 医療行為に伴う情報の種類や内容を理解し、医療情報の収集、整理、利用法を考え、ネットワークシステムを生かした医療情報システムが運用されようとしていることを理解する。					

2	[授業概要(梅田2)] 病院における医療情報の種類と流れを把握し、現在の病院システムを解説する。さらに検査データについての種類とその種別について解説する。また電子カルテなどにおけるメリットとデメリットについて解説する。	
	[到達目標(梅田 2)] 医療行為に伴う情報の性質について理解し、その扱い方やコンピュータを利用した情報の流れを理解する。	
3	[授業概要(山崎1)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。とくに明治期に健康に対する概念の変化について理解する。	参考文献 4、5
	[到達目標(山崎 1)] 「健康」という用語の誕生とその概念の変化について理解する。	
4	[授業概要(山崎2)] 「健康」に対する捉え方と多様な健康観について学習し、健康という概念の多義性と各々の健康観の特徴を理解する。そのことを通して、健康についての自己の視点を涵養する。	参考文献 4、5
	[授業概要(山崎2)] 「健康」という用語の誕生と「健康」という概念について学習するとともに東洋医学の健康観について学習する。とくに明治期に健康に対する概念の変化について理解する。	
5	[授業概要(山崎3)] 貝原益軒とは、養生訓の重要な考え方について概説する。	
	[到達目標(山崎 3)] 養生訓の総論について理解する。	
6	[授業概要(伊藤1)] 現在の医療問題について学習する。	
	[到達目標(伊藤 1)] 現在の医療問題について理解する。	
7	[授業概要(伊藤2)] 現在の医療問題について学習する。	
	[到達目標(伊藤 2)] 現在の医療問題について理解する。	
8	[授業概要(伊藤3)] 研究費申請のために必要な知識について学習する。	
	[到達目標(伊藤 3)] 研究費申請のために必要な知識について理解する。	

テキスト（配付資料）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報 医学・医療編 新版, 日本医療情報学会医療情報技師育成部会, 2009. 2. 医療社会学を学ぶ人のために, 進藤雄三, 黒田浩一郎, 世界思想社, 1999. 3. 養生・未病に関する配布資料 4. 医療原論 —いのち・自然治癒力— 医歯薬出版社, 東京, 2011.
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報学入門, 樺澤 一之, 豊田 修一, 共立出版, 2006. 2. 医療社会学を学ぶ人ために, 進藤雄三, 黒田浩一郎編, 世界思想社, 2001. 3. わかりやすい医療社会学, 野村拓, 藤崎和彦, 看護の科学者, 1997. 4. 「健康」の日本史, 北澤一利, 平凡社新書 5. 健康観の転換-新しい理論の展開, 園田恭一, 川田千恵子編, 東京大出版会
評 価 方 法	課題に対するレポートおよびプレゼンテーションにより評価する。
その他（アドバイス等）	随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	教育学概論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者	◎ 廣 正基、河井正隆、山崎 翼					
テ ー マ	教育学の理解とそれに必要な知識の学修					
授 業 の 概 要	教育学について、理療教育学を中心として学習し、その内容について理解する。特に、①理療教育の序論、②教育方法、③教材の作成と評価、④教育実習、⑤教育心理、⑥発達、⑦特別支援教育、⑧児童心理などについて理解を深め、教育学の基礎的内容について理解する。					
視 点 (ね ら い)	1. 教育学の基礎的内容について理解する 2. 理療教育について必要な知識 3. 教育方法や評価について理解すること 4. 教育心理や児童心理などについて考えること					
授 業 計 画						
日 程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 理療教育学 序説 (河井、山崎 1) [到達目標] 理療科教育に関する基礎的内容について理解する。					
2	[授業概要] 教育方法と技術のとらえ方(河井、山崎 2) [到達目標] 教育方法とその技術について、基礎的な内容を理解する。					
3	[授業概要] 教材の作成と教育評価 (河井、山崎 3) [到達目標] 教材の作成方法とその教育評価について、実際の方法に基づいて学習し、理解する。					
4	[授業概要] 教育実習 (概論) (河井、山崎 4) [到達目標] 教育実習の概論について学習する。					
5	[授業概要] 教育心理学とこころの構造(河井、山崎 5) [到達目標] 教育心理学とこころの構造について基礎的内容を理解する。					

6	[授業概要] さまざまな発達 (河井、山崎 6) [到達目標] 発達に関する基礎的内容について理解する。	
7	[授業概要] 特別支援教育 (河井、山崎 7) [到達目標] 特別支援教育について基礎的な内容を学習し、理解する。	
8	[授業概要] 児童期・思春期・青年期の問題 (河井、山崎 8) [到達目標] 不登校やストレス、いじめなどを含めた諸問題を含めて、各時期の問題について学習し、理解する。	
テキスト (配付資料)	配布資料及び 吉川恵士 (監修) : 理療教育学 序説, ジアース教育新社, 2015.	
参 考 文 献	特になし	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢 (発言など) などによって総合的に評価する (60 点以上を合格とする)。	
その他 (アドバイス等)	特になし	

授 業 科 目 名	予防医学					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	印刷教材	授業年次	1 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲					
テ ー マ	統合医療の基本となる養生について、その原理と基礎となる理論を学習することで、統合医療の本質を理解する					
授 業 の 概 要	養生の基礎となる①身体を知る、②身体を緩める、③身体を鍛える、④身体を整える、⑤身体を温める、⑥身体と食習慣、⑦身体と生活習慣について学ぶことで、エビデンスに基づく現代版養生訓を理解する。					
視 点 (ねらい)	1. 養生について理解する。 2. 養生の基本理論と方法論を理解する。 3. 養生を活用できるための方法を理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 養生とは？ [到達目標] 養生とは何かについて、その霧論を学習する。					
2	[授業概要] 養生教育1：身体を知る [到達目標] 養生の基礎である身体のサインについて理解する					
3	[授業概要] 養生教育2：身体をゆるめる [到達目標] 身体をゆるめることについて、その方法論を理解する					
4	[授業概要] 養生教育3：身体を温める [到達目標] 身体を温めることについて、その方法論を理解する					
5	[授業概要] 養生教育4：身体を整える1 [到達目標] 心や自律神経と身体の関係について、その方法論を理解する					
6	[授業概要] 養生教育5：身体と整える2 [到達目標] 身体と食事や思考について、その方法論を理解する					
7	[授業概要] 養生教育6：身体を鍛える [到達目標] 身体を鍛えることについて、その方法論を理解する					
8	[授業概要] 養生教育7：今後の予防医療 [到達目標] 未来の予防医療についてありかたを理解する。					
テキスト (配布資料)	配布テキスト					
参 考 図 書 (購入の必要はない)	1. 伊藤和憲：慢性痛は自分で治せる (KK ベストセラーズ) 2. 伊藤和憲：いちばんやさしい痛み治療 (医道の日本)					

評 価 方 法	レポート提出および発表で、総合的に評価を行う。
その他（アドバイス等）	特になし

授 業 科 目 名	鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎角谷英治、川喜田健司、齊藤昌久、宮坂卓治					
テ ー マ	最新の基礎研究におけるトピックス、特に鍼灸医学と関連するテーマを取りあげ、基礎医学研究の成果とその意義について考える。					
授 業 の 概 要	<p>(概要) 現代医学における基礎研究の最新のトピックスを取りあげ、どのような研究が注目され、研究対象とされているかについて医学情報を紹介し、最新の基礎医学研究の成果とその解釈(考察)について教授する。</p> <p>(川喜田健司/1回) 痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。(トリガーポイントの発現機序を含む)</p> <p>(角谷英治/4回) 鍼灸刺激と鎮痛系に関する概要と最新の知見として、鍼・灸刺激の鎮痛効果とその作用機序などについて教授する。</p> <p>(齊藤昌久/1回) 筋機能の評価に筋電図が用いられてきている。今回は筋音図(Mechanomyogram)を用いた研究を紹介する。</p> <p>(宮坂卓治/1回) 鍼灸学研究に必要な運動制御機構の基本と、筋電図計測法の種類とそれぞれの意義をについて教授する。</p>					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 痛みと鎮痛に関する最新の知見について理解すること 2. 体性自律神経反射の最新の知見について理解すること 3. 最新の基礎医学研究の進歩について考えること 					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考(授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要(川喜田1)] トリガーポイントの成因と鎮痛機序			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(川喜田1)] トリガーポイントの成因と内因性鎮痛系への関与を理解させる。					
2	[授業概要(角谷1)] 鍼鎮痛の概要			鍼灸刺激の特性と内因性鎮痛について予習する。		
	[到達目標(角谷1)] 鍼鎮痛の概要について理解できる。					
3	[授業概要(角谷2)] 上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛			上行性痛覚抑制系と末梢性鎮痛に関する論文を読み、簡単にまとめる。		
	[到達目標(角谷2)] 鍼鎮痛における上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛の関与の可能性について理解できる。					

4	[授業概要(角谷3)] 鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムについて	鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムに関する論文を読み、簡潔にまとめる。
	[到達目標(角谷3)] 鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムに関する最新の知見について理解する。	
5	[授業概要(角谷4)] 鍼灸刺激による身体反応について	
	[到達目標(角谷4)] 鍼灸刺激による身体反応に関する最新の知見について理解する。	
6	[授業概要(齊藤1)] 筋音図による筋機能の評価について	筋音図を用いた筋機能評価について論文(レビュー)を基に、理解を深める。
	[到達目標(齊藤1)] 筋電図と筋音図の特徴を理解し、筋音図を用いた筋機能評価について理解を深める。	
7	[授業概要(宮坂1)] 鍼灸学研究に必要な運動制御機構の基本と、筋電図計測法の種類について。	
	[到達目標(宮坂1)] 鍼灸学研究に必要な運動制御機構の基本と、筋電図計測法の種類とそれぞれの意義を理解する。	
テキスト(配付資料)		参考文献を参照
参 考 文 献		1. トリガーポイント鍼療法, 川喜田健司監訳, 医道の日本社, 1995 2. 痛みのメカニズム, 横田敏勝, 南江堂, 1997 3. 鍼灸臨床の科学 4. 体性-自律神経反射の生理学, 佐藤昭夫/佐藤優子/R. F. シュミット 山口眞二郎, シュプリカ-ージャパン, 2007
評 価 方 法		課題に対するレポートにより評価する。
その他(アドバイス等)		随時、適当な文献を紹介する。

■ 専門科目

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学研究法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者	和辻直					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	医学古典に関する研究、東洋医学の理論に関する研究、経絡経穴現象に関する研究、四診法の客観化に関する研究などに関する研究法を教授する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。 					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	具体的な研究計画を作成して報告(プレゼン)し、評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者	林 知也、角谷英治					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸基礎医学分野における研究課題(安全性を含む)、特にヒトを対象とした研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える 					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	講義	授業年次	1年通年
授 業 担 当 者	伊藤和憲					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野における研究課題、特にヒトを対象とした研究法について教授する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える 					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	健康予防医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス分野(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3分野)におけるヒトを対象とした臨床的な研究課題に関する研究法を教授する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える 					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	より高度な東洋医学の診断法・治療法と日本で独自に発展してきた伝統医学の診断・治療法、さらに古医書や古典医学文献、東洋医学の理論などの諸問題について教授・研究する。					
視 点 (ねらい)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	研究成果を報告 (プレゼン) し、評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	林 知也、角谷英治					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸刺激および刺鍼手技・施灸手技などの作用機序に関する研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)及び鍼灸の安全性について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	伊藤和憲					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題（研究目的、研究方法、結果、考察など）について教授・研究する。					
視 点 （ ね ら い ）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
テキスト（配付資料）	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	健康予防医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者						
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3つの領域)の分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること 					
テ キ ス ト (配 付 資 料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
そ の 他 (ア ド バ イ ス 等)						

授 業 科 目 名	特別研究 I					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、林 知也、角谷英治、伊藤和憲					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	5単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直、林 知也、角谷英治、伊藤和憲					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅲ					
単 位 数 等	単位数	2単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直、林 知也、角谷英治、伊藤和憲					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 (ねらい)	各研究指導教員の指示による。					
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要]研究指導					
2	[授業概要]研究指導					
3	[授業概要]研究指導					
4	[授業概要]研究指導					
5	[授業概要]研究指導					
6	[授業概要]研究指導					
7	[授業概要]研究指導					
8	[授業概要]研究指導					
9	[授業概要]研究指導					
10	[授業概要]研究指導					
11	[授業概要]研究指導					
12	[授業概要]研究指導					
13	[授業概要]研究指導					
14	[授業概要]研究指導					
15	[授業概要]中間発表					
16	[授業概要]研究指導					
17	[授業概要]研究指導					
18	[授業概要]研究指導					
19	[授業概要]研究指導					
20	[授業概要]研究指導					
21	[授業概要]研究指導					
22	[授業概要]研究指導					
23	[授業概要]研究指導					
24	[授業概要]研究指導					
25	[授業概要]研究指導					
26	[授業概要]研究指導					
27	[授業概要]研究指導					
28	[授業概要]研究指導					
29	[授業概要]研究指導					
30	[授業概要]中間発表					

テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。
その他（アドバイス等）	